



◇氏名：藤本 一輝
(ふじもと かずき)
◇出身校：藤枝明誠高(静岡県)
◇ポジション：FW
◇加入クラブ：大分トリニータ

鹿屋体育大学サッカー部所属の藤本一輝さん(スポーツ総合課程4年)が、Jリーグの大分トリニータ(以下、「大分」)へ加入することが内定しました。また日本サッカー協会より「JFA・Jリーグ特別指定選手」として認定され、大学のサッカー部に所属しながら大分の公式戦にも出場が可能となりました。今シーズン、同大学

からの特別指定選手は湘南ベルマーレの根本凌(スポーツ総合課程3年)に次いで2人目。大分への特別指定選手は初めてとなります。福岡県福岡市出身の藤本さんはスピード、テクニック、得点力に優れたフォワードで、静岡県の藤枝明誠高等学校から同大学へ入学。サッカー部では1年次より公式戦に出場し、一昨年度の総理

鹿屋体育大学の藤本一輝さん Jリーグの大分トリニータに加入内定



編集・発行／
公益財団法人 鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
〒891-2393 鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学内
0994-46-4827 (直)
編集兼発行人 風呂井 敬

2021大学案内発刊

2021年の受験生を対象にした鹿屋体育大学の大学案内が発刊されました。毎年漫画の表紙が話題を集めていますが、今年は23ある課外活動団体のなかからカヌー部と体操競技部を動きのあるイラストで表現しています。年間のトピック



「鹿屋体育大学 WEBオープンキャンパス」 を開催中

- 鹿屋体育大学は7月11日に令和2年度第1回大学説明会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず中止となりました。
- その代替措置として、同大学を訪れての見学ができない受験生の皆さんのために、「鹿屋体育大学WEBオープンキャンパス」を以下のとおり同大学公式webサイト上で開催しております。
- 【構成】
1. 鹿屋体育大学紹介動画
 2. 鹿屋体育大学概要紹介(吉重美紀アドミッシンセンター長)
 3. 在学生からのメッセージ①(スポーツ総合課程3年大辻ゆうさん)
 4. 在学生からのメッセージ②(武道課程4年平垣拓馬さん)
 5. 在学生からのメッセージ③(スポーツ総合課程4年橋本大さん)
 6. 授業紹介①「初心者を対象とした柔道の投技と受身技能の学習方法」(濱田初幸教授)
 7. 授業紹介②「スポーツ心理学から見た自分を成長させる方法」(中本浩揮准教授)
 8. 課外活動紹介
 9. 施設紹介
 10. 学生宿舎について



「鹿屋体育大学WEBオープンキャンパスQRコード」

新型コロナウイルスの影響で東京オリンピックが延期になりました。関係者のご苦労は察するに余りありますが、私たちに与っては楽しいが延びたと思つて、次のような「予習」をしておいてはいかがでしょう。それは半世紀前の東京五輪の様子を知っておくことです。▼まず公式記録映画の『東京オリンピック』(東宝)を観るとよいでしょう。映像が時代を超えて訴えかける力に驚きます。競技者の表情や市井の人の姿も多く映し込まれており、観察ポイントがたくさんあります。▼次に『文学者の見た世紀の祭典ー東京オリンピック』(講談社)を読みます。競技者のパフォーマンスを礼賛したものの、その内面に切り込んだものの、当時の世界情勢に対する批評など、個性が売り物の文学者の自己主張だけあつて百人百様で、「筆のオリンピック」と呼ばれたこともうなずけます。これらを読むことで、映画の各シーンの背景もさらによくわかります。▼新旧の比較を楽しんだら、最後に、自分が半世紀前の人になったつもりで、再度、映画や本を見直すといふでしょう。この大会は、太平洋戦争の悲惨な敗戦からの復興五輪という意味を持っていました。当時の人たちはどのような思いでこの祭典を観ていたのでしょうか。このように時間軸を変えて鑑賞すると、楽しみもまた深まると思います。(Y・M)

わかくさ

スポーツを愛する
すべての人とともに

ミズノスポーツ振興財団は、
スポーツの振興・普及を目指し、
スポーツを愛する人たちを応援しています。



公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団

50th
ANNIVERSARY

2020年
ミズノスポーツ振興財団は、
創立50周年を迎えました。

卒業生インタビュー

障がい者スポーツの普及に取り組み



鹿児島県身体障害者福祉協会
スポーツ情報課長
鹿児島県障害者スポーツ協会
事務局長

7期生 前田 究さん

【プロフィール】

まえだ・きわむ。昭和46年10月、京都府生まれ。京都府立洛北高校3年生の時、インターハイ京都府予選で走り幅跳び、三段跳びで優勝。平成6年3月、鹿児島県立体育大学体育・スポーツ課程卒業。平成9年3月、同大学大学院体育学研究科修士課程修了。鹿児島市の建設会社勤務を経て平成12年4月、ハートピアかごしまの開設と同時に鹿児島県身体障害者福祉協会に勤務。鹿児島県障害者スポーツ協会事務局長。著書に「車椅子マラソン競技者用テキスト：脊髄損傷を中心に」「車椅子マラソン：医学・科学的知見と実践指導」（いずれも赤嶺卓哉、前田究共著）がある。

「目標は変えるもんじゃない」。穏やかながらもキリッとした表情で言い切る言葉が、深く心に響いた。鹿児島県立体育大学1年生の時に突然車いすの生活になるも、JAPANのユニホームを着て世界に出るという高校生の頃に抱いていた夢を大学院生の時に実現させた前田究さん。車いすマラソンのお陰で新たな人生のスタートを切った喜びと感動の経験を広めたいと、障がい者スポーツの普及・振興に取り組み。常に目標を掲げ、不可能を可能に変えてきた。50代を目前に、選手としての今のモットーは「細く長く」。迷いのない目で明日を見つめ、新たな夢に向かって走り続ける。

「第20回全国障害者スポーツ大会」が燃ゆる感動かごしま大会が延期になりました。

前田 現時点では次はいつになるかわからないというところなので、選手としてゴールがなくなってしまう状態です。来年の三重県での開催に向けて頑張ろうという本県のチームもあるのですが、メンバーも変わっていきくんですよ。年齢が高い選手は続けていくのが難しいかもしれないし、若い選手は進学や就職で環境が変わってしまう。団体競技は今のメンバーで

戦うことをみんな楽しみ、前田 中学生の時から陸上をしていて、大学でも陸上は続けて結果を出したいと思っていました。高校2年生の時に京都府立洛北高校に入学した。当時の洛北高校は世界レベルの先生が集まっていた。そうだった先生方は横のつながりもあって、鹿児島県立体育大学の

瓜田吉久先生や金高宏文先生と知り合いました。その縁もあって高校3年生の時に鹿児島までキャンパスの下見に行き、なんと素晴らしい環境なんだとド肝を抜かれて、ここで学びたいって思いました。陸上競技場があるというのとにかくすごいな、と思って。キャンパスから見ると錦江湾の景色も、生まれ育った京都府市には海がないのでとてもきれいだと感じました。

「学生時代に交通事故に遭われたと聞きました。」

前田 大学1年生の9月、

きないと、自主的に坂道ダッシュのトレーニングを日課にしました。2年生の9月から大学に復帰するとともに陸上競技部の活動にも加わり、3年生で念願の車いすマラソン大会デビューを果たしました。大学生活では座学だけでなく実技にも挑戦。器械体操では北川淳一先生にトランポリンをやってみよう！と言われて、やってみると両下腕麻痺でもそこそこ跳ねるようになって。先生のコツの教え方がうまくて、びっくりしたことを覚えています。当時の先生方が尽力してくださったおかげで、規定の単位を取って、4年間で無事に卒業することができました。

「赤嶺卓哉先生との共同著書もあります。」

前田 3年生になる時に車いすスポーツの研究ができたので私のゼミに来ませんか、赤嶺先生に誘っていただきました。大学院にも進学し、障がい者スポーツの単独競技では国内初となる車いすマラソンの競技者用テキストを発刊に携わりました。現在は鹿児島県立体育大学の学生に非常勤講師として後期の「障がい者スポーツ論」を教えています。

実は大学院生の時に日本代表でジャパンのユニホームを着て、イギリスまで国際大会に行っているんです。目標が大事だという話はよく聞きますが、目標は変えるものじゃないというのをそのときに思いました。目標は変えずにやり方を変える。走り幅跳びで国際大会に行くという目標

「今後の夢は？」

前田 僕自身、車いすマラソンに生きる力をもったので、障がい者スポーツを広めたいという思いで今の職業に就きました。延期された全国障害者スポーツ大会のことは鹿児島ではまだあまり知られていませんが、大会を機に障がいのある人が当たり前にスポーツできる環境を整備し、障がいのない人の認知度も向上するよう、これからも働きかけたり、やれることをやっていきたいと思っています。大分国際車いすマラソンには今でも出場しています。車いすマラソンの現役選手としても、細々とでも続けていきたいですね。

（取材・文・西みやび）

首都圏を拠点に活躍している卒業生のインタビューが、次号の蒼天からスタートします。インタビューは元テレビ朝日アナウンサーでスポーツキャスターとしてもおなじみの宮嶋泰子さん（一般社団法人カルティベーター代表理事）。宮嶋さんには平成24年8月から鹿児島県立体育大学経営協議会学外委員も務めていただいております。スタートに先駆けて宮嶋さんからメッセージが届きましたのでお届けします。

こんな日々が来るとはだれが想像したでしょうか。現代人が直面した日常の大転換。新型コロナウイルス感染症拡大で多くの人が自由に行動できない枷をはめられてしましました。自由に行動し友と語らう楽しさを失って、初めてその大切さを実感した私たち。多くの人がステイホームで、気付けば一日に歩いた歩数は500歩未満。これまで通勤や仕事、買い物などで無意識ながら行っていた身体活動がいかに大切だったかを痛感していることではないでしょうか。

昨年まで日本の子供たちは国際比較調査では世界でもトップクラスの身体活動量でした。安全な国ゆえに可能な徒歩や自転車での通学、さらには部活動などで知らず知らずのうちに体力がついていたのです。それも揺らぎ始めています。成人病を予防するために運動が必要であることは今や常識です。単に脂肪を燃焼させるだけでなく、筋肉を動かすことで血管を柔らかくしたり、脳細胞を

刺激したりするマイオカインというホルモンが出ることもわかってきています。しかし、中高年の運動も今や後回しです。いや、体育大学関係者にとってもこれは最高のチャンスです。身体活動をこれまで通り行えないコロナ禍の時代だからこそ、意識的に運動を行う必要があると多くの人が実感し始めているのです。今こそ体育大学の存在意義を存分に発揮できるタイミングではないでしょうか。

私が経営協議会学外委員となった8年が経過しますが、いいところをたくさん見せていただきました。鹿児島県立体育大学出身のOG・OBは大学の研究者や健康や運動に関する仕事をするビジネスマン、競技役員など活躍していますが、共通するのはスポーツや運動で社会を元気にしているという気概があることです。もちろん在校生の活動も素敵です。過日の鹿児島市の豪雨と洪水による被害の後片づけを在校生たちがボランティアとして手伝ったというニュースを聞いて、さすが鹿児島体大と膝を打ちました。若い情熱と体力を自分のためだけに使うのではなく、他者のために使うこと、これほど大切で美しいものはないでしょう。

コロナ禍で孤立しがちな人々の心と身体を救うのは鹿児島県立体育大学で育ったあなたに与えられた使命かもしれません。

（スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子）

スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」

「スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子」



◆こんにちは

◆3年ぶりです

◆はじめまして



経営戦略課
副課長 楠原 良成



財務課
副課長 津代 晃



財務課出納係長
西崎 龍平

皆さんこんにちは。7月1日付けで鹿児島大学医学総合研究科等総務課から鹿屋体育大学経営戦略課に着任しました楠原と申します。

7月1日付けで国立大隅青少年自然の家から財務課へ着任しました津代と申します。平成29年7月に本学から3年間出向しておりました。

7月1日付けで鹿児島大学から財務課出納係に出向して参りました西崎と申します。龍平と書いて(りようへい)と読みます。

私は鹿児島県出水市の出身で、高校を卒業してから東京に10年ほど住んでおりました。最初に就職したのは国文学研究資料館で、現在よくTVに出演しているロバート・キャンベル先生は当時助教で在籍されておりました。鹿児島島に帰郷し、鹿児島大学医学部、鹿児島高専、鹿児島大学人事課、企画評価課、農学部・共同獣医学部、歯学部総合研究科で勤務しました。鹿屋体育大学は広々とした歴史が新しい自由な雰囲気のある大学というイメージがあります。

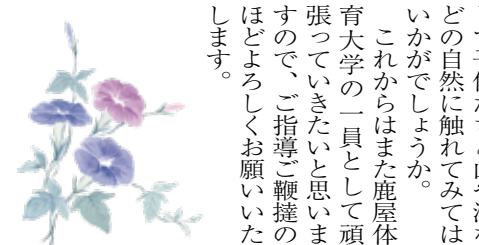
経営戦略課は大学の組織改編・目標・計画策定・評価、地域連携・社会連携という責任の重い仕事ですが、周りの方々のサポートを受け日々勉強中です。通勤が異動前は徒歩5分だったのが車とフェリーを乗り継いで2時間近くになりました。新鮮な気持ちで通勤しています。よろしくお願いたします。

7月1日付けで鹿児島大学から財務課出納係に出向して参りました西崎と申します。龍平と書いて(りようへい)と読みます。

国立大隅青少年自然の家では、通常の事務仕事だけでなく自然の家で主催する教育事業(ファシリテーションなど)の補助として、山や海などの実施予定場所の事前確認、山道の整備などです。普段なかなかできないことをやってみる貴重な機会に恵まれ、とても良い経験となりました。大学生の皆さんは教育事業に参加者としての参加はできませんが、自然の家スタッフを手伝うボランティアとしての参加は可能ですので、ぜひ参加して子供たちと山や海などの自然に触れてみてはいかがでしょうか。

これからまた鹿屋体育大学の一人として頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「明るく楽しく」をモットーに業務に取り組む所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



7月1日付けで鹿児島大学から財務課出納係に出向して参りました西崎と申します。龍平と書いて(りようへい)と読みます。

令和3年度鹿屋体育大学入試日程

※出願資格、出願書類、選抜方法等の入学者選抜に関する詳細については、大学公式ホームページでご確認ください。

体育学部	総合型選抜 (SS) 入試	学校推薦型選抜	一般選抜	特別選抜(帰国生徒・社会人)	私費外国人留学生入試	第3年次編入学試験
募集人員	10人	50人	60人	若干人	若干人	20人
出願期間	R2.9.15(火)～9.30(水)	R2.11.2(月)～11.6(金)	R3.1.25(月)～2.5(金)	R2.11.2(月)～11.6(金)	R3.1.25(月)～2.5(金)	R2.7.30(木)～8.4(火)
選抜期日	第1次選考: R2.9.15(火)～9.30(水) 第2次選考: R2.10.13(火)	R2.11.19(木)・11.20(金)	R3.2.25(木)・2.26(金)	R2.11.19(木)・11.20(金)	R3.2.25(木)・2.26(金)	R2.8.24(月)・8.25(火)
本学が実施する試験	第1次選考: 競技歴及び意欲等審査 第2次選考: 「プレゼンテーション+口頭試問」試験・健康診断	小論文、面接、実技検査、健康診断	「プレゼンテーション+口頭試問」試験、実技検査、健康診断	小論文、面接、実技検査、健康診断	小論文、面接、実技検査、健康診断	小論文、面接、運動能力検査、健康診断
合格者発表	R2.11.2(月)	R2.12.2(木)	R3.3.8(月)	R2.12.2(木)	R3.3.8(月)	R2.9.2(木)

入試に関する問合せ先
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係
E-Mail: nyushi@nifs-k.ac.jp TEL: 0994-46-4869 FAX: 0994-46-2515
公式ホームページ: <https://www.nifs-k.ac.jp/>

課外活動団体紹介



剣道部

私たち剣道部は、男子93名、女子35名、計128名で活動しています。通常は月曜日から土曜日の週6日間稽古を行っており、火曜日に木曜日には朝稽古も行っております。部員数は創設当初

より学内最大規模であり、大学在学期間を「剣道の理念」に基づいた修行として捉え日々の稽古に励んでいます。

私たちの当面の目標は全日本学生剣道大会の団体戦で優勝することです。過去、男子4回、女子10回の優勝がありますが、昨年は、女子がベスト4、男子は2回戦で負け、雪辱を期すところです。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響により試合はおろか稽古さえ満足にできていません。それでも部員一人一人が努力し、今できることを考え行動しています。全てにおいて昨年を上回るように部員全員が一丸となって努力していこうと思います。

また、大会で優勝するという目標とは別に剣道の理念にもある人間形成を大切にしています。試合での勝ち負けを第一に考えるのではなく、相手を敬う気持ちや礼儀を重んずるという精神を持ち合わせつつ勝利を目指すことを大事にしています。

今後それぞれの課題に対し、試行錯誤を繰り返して、「朝鍛夕錬」の稽古に取り組み、良い結果が報告できるように日々の部活動に取り組んでいきたいと思っています。

UNIVASスポーツ統括部局/SA賞
鹿屋体育大学に賞状・トロフィー
7月下旬、「UNIVAS AWARD 2019-20」スポーツ統括部局/SA賞部門の賞状・トロフィーが鹿屋体育大学に届きました。
このアワードは、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)が主催し、今回が第1回目の開催となります。同大学は、大学スポーツ振興に関する先進的取り組み事例を行ったスポーツ統括部局(大学)及びSA GALLERYに展示され、最優秀賞を受賞しました。



「視覚」「触覚」が「記憶」に残る

SUGOHAKU

【厚盛デジタル加飾システム】-KIRAMEKI-

印刷物へ
新たな付加価値を

厚盛クリアニスの上に箔を加飾させることで、盛り上がった立体的な箔加工が可能になりました。
従来の箔押しと一線を画した
グラマラス感のある仕上がり。

箔 (Foil)

厚盛デジタル加飾により盛り上がった箔加工

厚盛クリアニスによるリアルなテクスチャ感

パッケージ・パンフレット・ポスター etc.に、ご活用いただけます。

厚盛デジタル加飾により盛り上がった箔加工

厚盛クリアニスによるリアルなテクスチャ感

ヒューマン印刷に優する

株式会社新生社印刷

鹿児島県鹿屋市礼元1丁目22-34

お気軽にお問い合わせください。
URL <https://www.shinsei-p.co.jp>
E-MAIL kan@shinsei-p.co.jp

0994-43-2238

まっすぐに。正直に。

大波酒造株式会社

たい かい

〒893-0016
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号
電話(0994)44-2190 FAX(0994)40-0950

〇飲酒は20歳になってから。
〇飲酒は楽しく、適量を。
〇妊娠中、授乳期の飲酒はお控え下さい。
〇飲酒運転は法律で禁止されています。

国立大隅青少年自然の家との連携協議会を開催

6月23日、国立大隅青少年自然の家と鹿屋体育大学との連携協議会が開催されました。本協議会は、平成18年度のスポーツ体験活動を通じた社会貢献及び教育研究分野の発展に寄与することを目的とした協定に基づき、毎年開催されています。今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各会場にてWeb会議で実施されました。

まず、令和2年度の教育事業等の計画について大隅青少年自然の家の園師事業推進室長より説明

があり、今年度も同大学と連携した事業を行うことを確認しました。続いて、昨年度の事業について報告があり、錦江湾をカヌーや徒歩で縦断する「海からのメッセージ」や、鹿屋体育大学が中学生へバレーボールや野球、バスケットボールを指導する「スポーツキャリア」に携わった学生及び教員への感謝の言葉が述べられました。また、同大学学園祭「蒼天祭」へのクラフトの体験教室

へ出店について、引き続き協力いただけることとなりました。

今後、国立大隅青少年自然の家との活動を通じ、さらなる連携を深めることが期待されます。



鹿屋体育大学でキャリア形成支援室主催 令和2年度第1回就職ガイダンスを開催

学年に応じた就職活動の情報提供を行うことを目的に、6月23日、鹿屋体育大学キャリア形成支援室主催の令和2年度第1回就職ガイダンスが開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、会議システムを利用したWebでの開催となりました。

1年生へは令和2年3月卒業生の就職先・進路先一覧及び就職状況等のデータをもとに、鹿屋体育大学の前田博子キャリア形成支援室長が、同大学の学生の近年の就職状況を解説しました。2年生へは(株)マイナビから外村伸吾氏をお迎えし、就職活動準備の早期化、2年後の就職戦線

等について、就職についての意識付けを行いました。3年生は3つのコースに分け、「教員コース」では時事通信社の中川晴雄氏が近年の教員採用試験の傾向や受験状況等について、「公務員コース」では中央法科大学の相澤一郎氏が近年の公務員採用試験の傾向や受験状況等について、「一般企業コース」では(株)リクルー

トキャリアの久保彩華氏が2022卒業生の就職活動の動向やインターンシップ等、就活準備期間にやっておくべきことを具体的に解説しました。

参加した学生からは「自分の将来について考える良い機会になりました。これから自分の生活を見直して就職活動に生かしていこうと思います」と(植田恭生さん、スポーツ総合課程2年)、「やりたいことだけじゃなく、いろんな知識の幅を広げようと思えるような講義でした」(阪

本雄大さん、同2年)、「今やっていることに一生懸命取り組むこと、将来についていろいろと考えておく必要がある」と(林祐輝さん、同2年)、「今やれることを考えるだけじゃなく、しっかりと今すぐ行動を起こさないと後悔するかもしれない」と(水野智大さん、同2年)など、前向きな感想が聞かれました。

終了後のアンケートでは参加者全員が「とても参考になった」と回答し、「就職活動に関する不安は軽減されたと思いますか?」の質問には1名が「とても思う」、残り5名が「少し思う」と答え、これまで未知の世界であった就職に対する不安がいくらかでも取り除かれたことがうかがえました。

また2日間を振り返って、「今までの考え方は甘かったことを痛感した。ただ、それを今知ることができてよかった」「エントリーシートにどのように書けば良いのかを知ることができた」



初のWebでの開講となりましたが、教室も開放しました

鹿屋体育大学第1回就職塾を開催 少人数制で就職に関するノウハウを学ぶ

7月18、19日の2日間、東京からキャリアコンサルタントの齊藤淳郎氏を講師としてお招きし、鹿屋体育大学で3年生を対象にした就職塾が開催されました。同大学のキャリア形成支援室では、就職活動の全体像を理解して就活に必要な知識を身に付けてもらうことを目的に、毎年夏と秋の2回開催しています。10年目となった今年の第1回目は6人の3年生が参加。昨年参加した学生の中から3人の4年生がサポーターとして加わり、自分自身の魅力を引き出す自己紹介のやり方から、1人15分の個人面談、エントリーシートの書き方、最後はグループディスカッションまで、2日間にわたり指導を受けました。

終了後のアンケートでは参加者全員が「とても参考になった」と回答し、「就職活動に関する不安は軽減されたと思いますか?」の質問には1名が「とても思う」、残り5名が「少し思う」と答え、これまで未知の世界であった就職に対する不安がいくらかでも取り除かれたことがうかがえました。

また2日間を振り返って、「今までの考え方は甘かったことを痛感した。ただ、それを今知ることができてよかった」「エントリーシートにどのように書けば良いのかを知ることができた」



公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団 令和2年度第1回理事会・評議員会を開催

～令和元年度収支決算などを承認～

公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団は7月から8月にかけて令和2年度第1回理事会、評議員会を開催しました(議事次第は、下記の通り)。

本財団は、今年度も鹿屋体育大学の教育振興のために必要な助成、体育・スポーツ活動において優れた成績を収めた学生等に対する奨学金の給付等を主な事業として活動していく所存です。

令和2年度第1回理事会議事次第(みなし決議)

1. 主な議事
 - (1) 令和元年度事業報告案、決算報告案及び監査報告について
 - (2) 令和2年度第1回評議員会開催について
 - (3) 理事長・専務理事及び常任理事の職務執行状況の報告について

令和2年度第1回評議員会議事次第(みなし決議)

1. 主な議題
 - (1) 理事・評議員の選任について
 - (2) 令和元年度事業報告案、決算報告案及び監査報告について

野球イベント開催

鹿屋体育大学では硬式野球部学生との地域の子供どもたちとの交流の場として毎年恒例になっている野球のイベント、①第4回学童野球教室(12月6日、参加費1000円)②第12回少年野球教室(12月13日、同1000円)③第2回ベースボールフェスタ(12月20日、無料)④第6回大隅地区野球を語る会(1月30日、同2000円)を12月から1月にかけて開催予定です。対象者は①小学生②中学生③小学生以下④指導者です。参加希望者はチームごとに早めに申し込んでください。

問い合わせは硬式野球部携帯080-9053-1600またはfujij@nifs-k.ac.jp